

糸満での12日間



糸満のキャンプは最高の環境と、望んでいた気候でした。何より、糸満で多くの人々が協力してくれた。おもてなしの心や、協力してくれるメンタリティを、すごく持ってくれた。その精神をととてもうれしく感じています。

J1昇格をしなければいけない立場ですから、キャンプでは意図してボールを奪いに行く、超攻撃的な守備に取り組んでいます。沖縄の暑さの中で、選手たちは本当によくやってくれています。攻守ともに、いい顔をしている。このキャンプには手応えしかありませんし、伸びしろしかないチームです。



ジュビロ磐田
あきば ただひろ
秋葉 忠宏 監督

平和学習では、改めて、平和の大切さ、尊さを認識しました。戦争は二度と、あってはならない。我々がフットボールができていのも、平和があつてのことですからね。その意思を受け継ぎ続けないと。フットボールの醍醐味は、最後にゴールするところ。市民の皆さんには、ぜひジュビロ磐田を応援いただき、糸満の地で力を蓄えた選手がゴールを決める姿を、たくさん見ていただきたいと思います。

アスリートにこそ、この「相手を敬う精神」を糸満の地で感じてほしい。その心に触れた選手たちは、静かに今シーズンの躍進を祈り、一丸となって勝利を誓いました。

この夏、糸満市がサックスブルーに染まりました。市役所の前、運動公園の周り。通りのあちこちで風にゆれる青い旗は、ジュビロ磐田を迎えるための、まちからのあいさつです。
ジュビロ磐田は、1972年にヤマハ発動機サッカー部として誕生し、1994年、Jリーグに加盟しました。Jリーグの創成期を支え、J1リーグ優勝3回、天皇杯優勝2回、リーグカップ優勝2回、そしてアジアの頂点にも立った、日本屈指の名門です。そのクラブが、糸満市で12日間を過ごしました。
7月3日の歓迎セレモニーには、糸満市スポーツキャンプ等受入協力会や市サッカー協会の関係者が集まり、キャンプの始まりを熱く歓迎しました。市内でとれたマンゴーや泡盛など市内の特産品が送られ、クラブからはサイン入りのボールが手渡されました。このサインボールは、市役所1階市民ホールに展示されています。
選手たちは、練習で汗を流すだけではなく、7月6日には本

市で平和学習を行いました。そこで、本市の歴史と向き合い、平和の尊さに触れる時間を過ごしました。
最初に訪れたのは、ひめゆり平和祈念資料館。献花をし、講話に耳をかたむけました。続いて向かった平和祈念公園では、平和の語り部育成事業で学んだ、本市の高校生が、平和の火や平和の礎を案内しました。説明を終えると、監督や選手から拍手で感謝が伝えられました。また、静岡県出身の戦没者の名が刻まれた礎の前で、花を手向け、黙祷をささげました。
次に向かった白銀堂でチームは「必勝祈願」を行いました。
市観光協会の上原澄枝さんの案内で、古くからこの地に伝わることわざ「意地ぬ出らあ手引き、手ぬ出らあ意地引き」の説明がありました。「腹が立ったら手を出さないようにし、手が出そうになったら心を静めなさい」という意味で、互いを尊重しあう心、すなわち「平和の原点」を説いたものです。
厳しい競争の世界に身を置く

平和学習などの様子は、クラブのホームページや公式YouTubeチャンネルで公開中です。クラブや選手たちの思いを、ぜひ、ご覧ください。

